

# F900A/D/J トランサムドーリー部品図

⑬タイプにより下記の  
タイヤが付随します

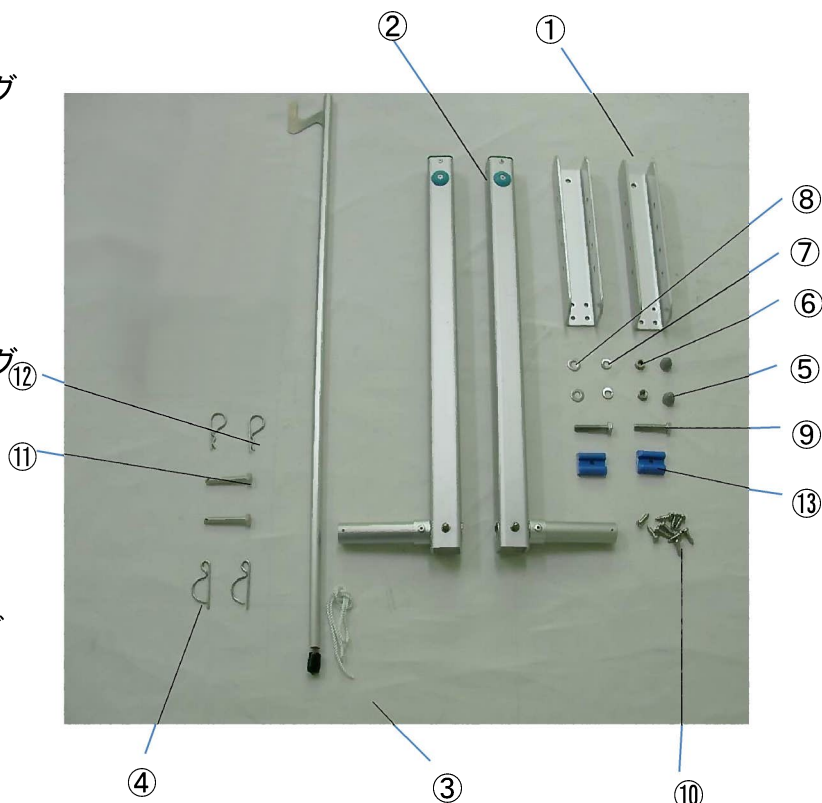
TA40A Aタイヤベアリング



TA30D Dタイヤベアリング



TA40J Jタイヤベアリング



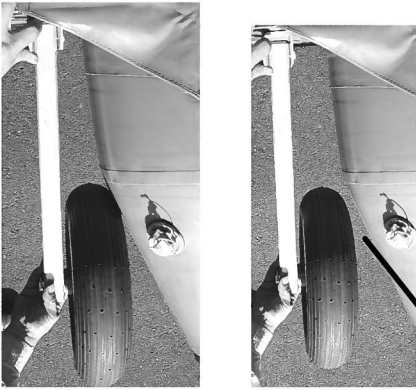
写真NO	品番	品名	使用数量
①	Z840	トランサム用ブラケットのみ(アルミ付)L=250mm	2
②	Z848	F900用メインフレーム38角シャフト、擦止付 550mm	2
下記はZ848組込済品です。			
②	Z847	F900用車軸シャフトアルミ 25.4φカラー組込	2
②	P04-5-45	SUS六角ボルト5-45	2
②	P06-05	SUSワッシャーM5	4
②	P05-05	SUSスプリングワッシャーM5	2
②	P18-05	SUS袋ナットM5	2
③	F840	トランサムドーリー用跳上パーロープキャップ付	1
ハックセット(ビニール袋入り)			
④	Z521	Dリング 車軸用	2
⑤	P18-16K	M8ナット用キャップビニールF900用	2
⑥	P07-08	SUSナットM8 ブラケット上部固定用	2
⑦	P05-08	SUSスプリングワッシャーM8 ブラケット上部固定用	2
⑧	P06-08	SUSワッシャーM8 ブラケット上部固定用	2
⑨	P04-8-45	SUS六角ボルト8-45 ブラケット上部固定用	2
⑩	P01-TP6-20	SUSプラスナベタッピングビスA6-20 ブラケット用8本、当てレール用	10
⑪	P17-16	ボルトM8-55 テンゾウナン(ピン)BY、ポール、F800 フレーム回転軸用	2
⑫	P13-130	Rピン 2.3ミリ フレーム回転軸用	2
⑬	JL104-38	F800/900用当てレール38mmカット フレームのガタ止め用	2
⑭	TA40A	Aタイヤベアリング 4.80/4.00-8新キャップ	2
⑭	TA30D	Dタイヤベアリング 4.10/3.50-5ホス幅82mm	2
⑭	TA40J	Jタイヤベアリング 16x6.50-8新キャップ	2



コチラのQRコードより  
弊社通信販売にて  
交換部品販売しております。

# F900 トランサムドーリー取り付け説明書

取付け例を示します。艇によって取付かない場合がありますので必ず穴を開ける前に取付け確認を行って下さい。  
個人でお取付けになる場合は専門的な知識のある方やその補助を受けて取付けて下さい。取付けに自信の無い方は専門店に取付をお願いして下さい。



トランサムに仮当てを行いエンジンを切った時にフレーム及びタイヤが当たらないか確認してください。  
基本的にはトランサムドーリーは跳ね上げ後、取外して船内に収容し走行しますが、跳ね上げて使用する場合は危険のない状態でご使用下さい。

トランサムに仮当てを行いフレーム及びタイヤが回転する際にチューブにタイヤが擦れないか見て下さい。

注意 インフレーターボートにはJタイヤは取付け出来ません、タイヤがチューブに干渉します。

タイヤとチューブの隙間を確認します、トランサムドーリーは出来るだけ外に装着した方が安定は良くなります。  
トランサム上部に穴の開いている艇の場合はまずはその穴を利用して装着出来るか確認してください。

## FRP艇への取付け注意



FRP艇への取付けは、船体製造メーカー様にトランサムの強度を確認して指定の位置に取付けて下さい。  
取付けの際には写真のように嵩上げが必要になる場合があります。(ガンネルが出ているのでほとんどの艇で必要です)



アルミボートやトランサムの薄い船は裏当てをしてボルト、ナットで固定して下さい。  
(ボルト、ナットは6mmのネジをお買い求め下さい)



嵩上げをする場合、同封のボルト等は使用できませんので別途長さの合うボルトをお買い求め下さい。  
このタッピングビスで取付ける部分をM6の貫通ボルトに変更します。



FRP艇、アルミ艇用嵩上げスペーサー別途販売しています。  
左図(ボルト入り)品番F822

厚さ30mmのアルミ角パイプです。トランサムのガンネル(船の淵)が出っ張っている船に付けます。  
ガンネルが30mm以上出ている場合は別途、木製のベース等制作する必要がある場合も有ります。

## 注意！

トランサム形状が円弧形状、極端な傾斜がついている場合は取付できません。  
(円弧形状の場合はこの嵩上げの木材を斜めに加工してトランサムドーリーが直角に装着出来るようにします)

## ● ご使用上の注意

- ① フレームを降ろした状態での走行や帰港時の直接乗り上げはしないでください。  
一旦ボートから降りて引き上げてください。
- ② 本体の使用荷重はエンジン、装着等含めた船体重量80kg以内でご使用下さい。
- ③ ボート移動の際無理な力で押ししたり引いたりしないでください。基本的には引いて使用しますが移動中に艇によりタイヤに抵抗が掛かる場合がありますのでその場合は押して使用して下さい。
- ④ 傾斜地では横転の恐れが有りますのでご注意ください。
- ⑤ フレームの回転は必ずエンジンを止めて行って下さい。走行時は基本的には取外して下さい。
- ⑥ 定期的にブラケットの取付け等点検をして下さい。異常が感じられた時は使用を中止して下さい。
- ⑦ タイヤ空気圧は0.8~1.0kg以下にてご使用下さい。
- ⑧ 車内等に入れる場合は多少空気圧を落とし、常時窓を開けて換気して下さい。
- ⑨ 直射日光の当たる所で保管しないようにして下さい。

## F900 トランサムドローリ取り付け説明書(インフレーターボートの場合を示します)

このたびはトランサムドローリ(F800)のお買い上げ誠にありがとうございます。

梱包内容をご確認の上お取付けください。

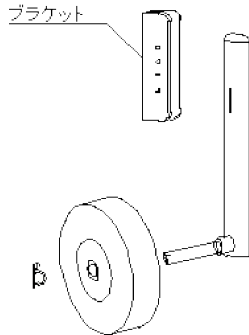
### F900 トランサムドローリ

#### A F900用メインフレーム38角シャフト付の組立



用意する工具

- +ドライバー
- スパナ(8mm用)もしくはレンチ
- シーリング剤(一番小さいチューブでも可)
- ドリル+4mmのキリ(船によっては8mmも必要)



1) タイヤをシャフトに入れ、Dリングで止める。

2) ブラケットとフレームに固定ピンを通し、Rピンで止める。フレームを回転させた時タイヤが艇に当たらない位置にピンを固定して下さい。



引き上げ棒はロープを通しキャップをはめて組み込みます。使用時はロープを手首に通し落下防止に使用します。



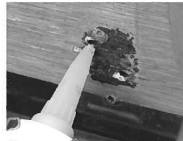
①

トランサムに合わせ8mmの穴を開けて(穴の有る艇はそのまま利用して)M8×45ボルトを平ワッシャー、スプリングワッシャー、ナットにて仮固定します。添付のナイロンキャップは完成後ナットに被せます。



②

先に上側を固定します。

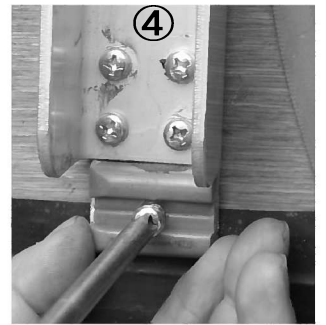


各穴部にはシリコン等水止め剤を注入して下さい。



③

ブラケット下部の固定を4mmのドリルで穴開けします。(インフレーターボートは付属のタッピングビス4本止め、FRP艇は随時適合するM6ボルト2本止めします)



④

当てレールはメインフレームのガタ防止として取付けます。写真の向きに同封のM6タッピングビス1本で固定します。



⑤

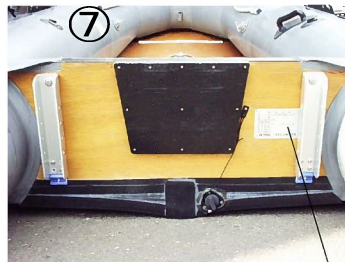
固定ピン

タイヤを持ち上げてタイヤが船底に擦らない位置で固定ピンを止めて下さい。



⑥

指で指示している丸い擦れ止めがタイヤを跳ね上げた時に外側になるように、フレームをセットして下さい。フレームのガタ止めとなります。



⑦

各部のネジを増し締めして作業完了です。船体の注意書等がフレームにより隠れてしまう場合は注意書を移動して取付けて下さい。

注意書



出艇イメージです

### 跳ね上げ棒の使用方法



跳ね上げ棒の先端のN字部分で車軸を押し下げて写真の様に引き上げて下さい。上下の際には艇外に乗り出さないようにして下さい。

船体の仕様銘板、取扱説明書、記載に干渉する場合があります。可能な場合は移動願います。移動不可の場合はお客様のご判断にて取付願います

## タイヤご使用上の注意

このたびは弊社製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。  
弊社のエアータイヤにつきまして下記のことにご注意してご使用下さい。

### TA40F/TA40G/TA40J (ジェットランチャー、ジェットバンク、L700 等に使用)

- チュープレスタイヤですのでチューブは入っておりません。
- タイヤ空気圧は約 0.8kg～1.0kg位でお願い致します。特に夏場は直射日光で内圧が高まりますので必ず数値内でご使用下さい。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 冬になり気温が低下するとタイヤの内圧が下がり、チュープレスタイヤなので空気が抜けてしまう場合が有ります。船を載せて保管される場合は時々空気圧のチェックをして下さい。
- タイヤが潰れたまま長期放置すると、ヒビ割れして空気の再注入が不可能となってしまいます。長期保管の場合には、台車の下にブロック等を入れておく事をお勧めします。
- エアー漏れでも早期に対処していただければ十分再生します。時々点検していただくようお願い致します。

### TA40A(アルミランチャー、トランサムドローリー等に使用)

- タイヤ空気圧は約 0.8kg～1.0kg位でお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります。また、冬場は低温で空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化を早めます。時々点検していただくようお願い致します。
- 交換用タイヤ(外側)とチューブは別途販売しています。適宜交換下さい。

### TA30D(サーフ系ランチャー、Z071 前輪等に使用)

- タイヤ空気圧は約 1.0kg～1.5kg位でお願い致します。夏場は気温が上昇し内圧が高まります。また、冬場は低温で空気圧が下がりますので空気圧の点検をお願い致します。
- 運搬の際はなるべく車外で搬送してください。車内に入れる場合は空気圧を必ず 0.5kg以下にして下さい。また、停車時には必ず窓を開けて換気し、直射日光を避けて下さい。
- 空気圧が少ないままの使用、保管はチューブの損傷やタイヤの劣化を早めます。時々点検していただくようお願い致します。

### 上記全てのタイヤについて

- 車軸部にベアリングが内蔵してあります。ベアリング部にはグリス等を塗布しないようにして下さい。砂、埃、が付着して磨耗の原因となります。ベアリング部は良く水洗いしてください。
- ベアリング部も消耗、紛失した場合は交換用部品がございますので、補修をしてください。
- 空気は、ガソリンスタンド等に置いてある自動車、バイク用の空気入れで入れられます。一般自転車用の空気入れではバルブ形状が合いません。詳しくはHPをご覧ください。

### 空気圧換算表

kg	Kpa(キロパスカル)	pa(パスカル)	PSI(ポンド)	Bar(バール)
1	100	100000	14.2	1

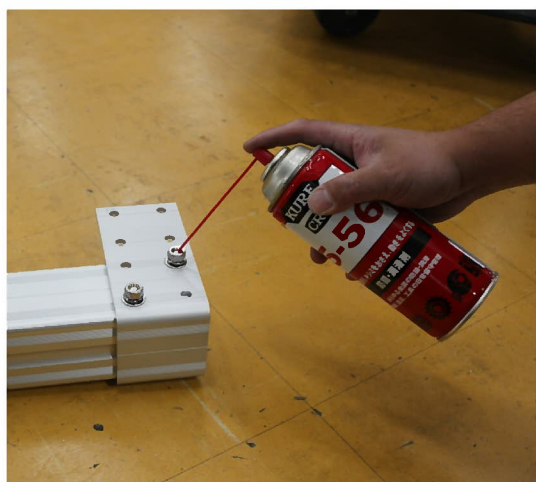
## <<ボルトの締め付け、取扱い注意>>

ステンレスのボルトやナットをインパクトレンチなどで急激に締め付けるとネジの嵌め合い部で摩擦による熱が発生し、その熱によってネジ部が膨張し、オネジとメネジが密着し焼付きを起こし動かなくなることがあります。そのまま締め付けていくとボルトが折れることもありますのでご注意ください。  
また必ず潤滑剤を塗布してから締め付けをしてください。

ナイロンナットにはすでにオイル等を塗布してパックされていますが、地面に落としたり、砂埃で砂が付着した際はきれいにしてから再塗布をし締め付けをしてください。







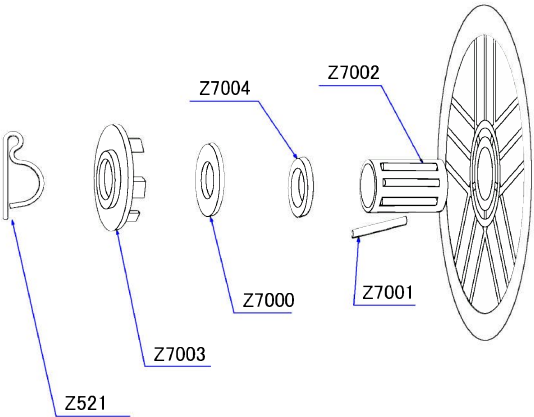
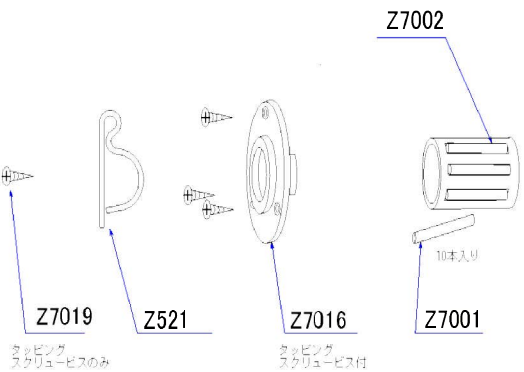
# 急激な 締め付け注意！



潤滑剤を塗布してください。

2018年よりTA40系のベアリングが変更になりました。

下記、相違表をご確認ください。

	旧	新
	2017年まで	2018年から
品番	TA30系	TA40系
キャップ色	ブラック	グレー
固定方法	打ち込み式	ビス止め式
キャップ		 ※適宜ゆるんでないか確認してください。
リム形状	 打ち込み式の形状です	 ※穴は2つ並んであります ビスが締め切らなくなりましたら 隣の穴をご使用ください。 ビス用の穴があります
部品図	 Z521, Z7003, Z7004, Z7002, Z7001	 Z7019, Z521, Z7016, Z7002, Z7001 <small>※Z7019はスクリュービスのみ</small> <small>※Z7016はスクリュービス付</small>
	部品図のZ7003は TA40系には使用できません	部品図のZ7016は TA30系には使用できません